長崎市恐竜博物館（長崎のもざき恐竜ﾊﾟｰｸ構成施設）
ｼｰﾎﾞﾙﾄ来日 200 周年記念ｲﾍﾞﾝﾄ「ﾀｺとｴﾋﾞとｼｰﾎﾞﾙﾄ」

実施期間：2023 年 5 月 28 日（日）～2023 年 11 月 30 日（木）

鈴木香里武氏による「海の学び講演会」

「のもざき磯遊び講座」

「タコとエビの凧（ハタ）づくり講座」

「地域の海洋生物の生体観察」

【事業の内容・目的】

■日本に西欧の自然科学を伝え、世界に日本の海洋生物を広めたシーボルトの来日 200 周年を記念した長崎独自のイベントとして開催した。

■専門家による講演会や磯遊び講座等を幅広い世代に対して開催することにより、身の周りの海や海洋生物、自然科学への関心を高め、環境問題の啓発や持続可能な社会の実現につなげる取り組みとした。

■地域住民と専門家、自治体が連携して実施することにより、地域の海や水産資源への興味関心が高まり、海を中心とした自然に関わる次世代やインフルエンサーを育成する取り組みとした。

■開催地域「野母崎」の「タコ祭り」や「伊勢エビ祭り」とタイアップすることで、申請事業実施後も海の学びの機会として継承していく契機となることを目指した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

活動の様子

１．海の学び講演会

【開催日時】２０２３年　６月２５日（日）１３：００ ～ １４：３０
【開催場所】野母崎文化センター（長崎のもざき恐竜パーク構成施設）
【参加者数】１１５人
【活動内容・目的】

- ●岸壁幼魚採集家で幼魚水族館長の鈴木香里武氏を講師として招聘し、タコやエビなどの海洋生物の魅力や環境保全についての講演会を開催した。
- ●長崎市恐竜博物館の学芸員によって、シーボルトと海洋生物のつながりも紹介した。
- ●講演会を通して、身の回りの海や海洋生物に対する興味関心が高まった。また、記念バッジを配布し、本件に関する記憶の定着を促した。

野母崎文化センター

企画趣旨の説明

シーボルトの功績の紹介

鈴木氏による講演（1）

鈴木氏による講演（2）

鈴木氏による講演（3）

野母崎文化センターにて鈴木香里武氏による講演会を実施した。同氏の講演会に先立ち、同パークの安達考紀所長から企画の趣旨が説明され、本企画がシーボルト来日２００周年の記念事業であることを紹介した。また、イセエビ等の学名の命名者でもあるシーボルトの海洋生物学者としての側面を長崎市恐竜博物館の中谷大輔学芸員が紹介することによって、本事業が地域の歴史と海の学びにつながるものであることを解説した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

鈴木氏による講演（4）

鈴木氏による講演（5）

鈴木香里武氏は子供のころから海洋生物に興味を持ち、漁港に集う幼魚を中心に海洋生物を採集・観察してきたことで、現在では岸壁幼魚採集家として活動しており、その経験と知識を活かして幼魚水族館の館長も務めている人物である。本講演会では、鈴木氏自身の経験談や撮影した画像と映像、クイズを交えながら参加者の興味関心を高め、海洋生物の魅力をわかりやすく伝えた。また、地域の特産品で、本事業の主題となっているタコとエビについても詳しく解説することにより、地域の海への興味関心を高めるとともに、海洋環境の問題や保全の必要性を訴えた。

参加者からの質問

鈴木氏による回答

講演終了後に質疑応答の時間を設け、鈴木氏には参加者からの質問に答えていただいた。参加者からは幼魚の魅力や幼魚採集のコツなどの質問が投げかけられ、鈴木氏は一つ一つの質問に時間をかけて丁寧に回答していった。また、シーボルトが名付けたイセエビの学名についての質問もあり、それに対しては長崎市恐竜博物館の中谷大輔学芸員が対応した。講演終了後も参加者の幼魚への関心が尽きることはなく、参加者同士で会話を楽しんでいる様子がうかがえた。後日、参加者が地元の漁港で子どもたちと一緒に幼魚採集を行っていたことがわかり、本講演会が能動的な海の学びにつながったことがわかった。

【参加者の声】

◯私たちが知らないことが多すぎる事をまじまじと感じることが出来、今日の話の中から身近にいろいろなものを注意深く感じ取れる人になりたいと思った。
◯自然を汚さないように、ごみを捨てないようにしたいと思った。
◯自分の身近な場所でも幼魚を探してみて海を知りたいと思った。
◯豊かな海の美しさを幼魚から知ることができた。
◯海なし県から来たので、海について見た目だけじゃわからないことばっかりってわかりました。海ゴミが残念でなりません。
◯海のゴミについて悪いイメージしかなかったけど、そのゴミを利用して生きぬく魚があらわれた事はすごいと思う。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

２．のもざき磯遊び講座

【開催日時】２０２３年6月4日（日）１２：００ ～ １５：００
【開催場所】田ノ子海岸（長崎のもざき恐竜パーク裏）
【参加者数】２８組（50人）
【活動内容・目的】

- ●博物館裏に広がる磯を使って、地域の海や磯の生き物への興味関心を高める機会として開催した。
- ●長崎大学と長崎ペンギン水族館、のもざき自然塾、地域の漁協関係者等、海洋生物の専門家や大学生の解説を聞きながら、磯の生き物を採集し、観察することで、個人で行うよりも深い学びにつなげる機会とした。
- ●磯での生き物採集の前後には、触ってはいけない危険生物や採集禁止の生き物について、専門家が詳しく解説し、事故の防止に努めた。
- ●本事業で採集した生き物については、「４．地域の海洋生物の生体観察」の一環として水槽にて飼育し、本事業に参加していない来場者にも磯の生き物の魅力を発信した。

田の子海岸

事前打ち合わせの様子

竹垣准教授による講演

竹垣准教授による現地説明

磯の生き物採集（1）

磯の生き物採集（2）

長崎大学と長崎ペンギン水族館、のもざき自然塾、地域の漁協関係者の協力のもと、干潮時の田の子海岸にて 50 名の参加者と共に磯の生き物採集を行った。参加者は事前に長崎大学水産学部の竹垣毅准教授から磯の生き物の特徴や採集時の注意事項などを聞き、５名程度のグループに分かれた後は同行する専門家と共に海の生き物に関する会話を楽しみながら磯の生き物を採集していった。歓声があがるたびに海の生き物への興味関心が高まっていった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

採集した生き物の観察

ペンギン水族館の近藤氏による解説

採集された生き物は文化センタ前に設置された大型水槽に集められ、他の参加者と共有する時間を設けた。それぞれが捕獲した生き物を見せあうことで会話が弾み、自身が捕獲した生き物だけではなく、他の参加者が捕獲した生き物についても関心が高まった。さらに、長崎市ペンギン水族館の近藤ゆうい氏とのもざき自然塾の山本春菜塾長らから、普段は目にすることが少なく、触ると危険なラッパウニやガンガゼ、ゴンズイ等の危険生物の特徴が詳しく紹介され、気をつけるポイントについても解説していただいた。このことにより、生きている危険生物を間近で観察しながら専門的な話を聞くことができる実り多い機会となった。

のもざき自然塾の山本塾長による解説

採集した生き物の飼育

本講座終了後、「４．地域の海洋生物の生態観察」の一環として、採集した生き物の一部を屋内の水槽で飼育することとした。このことにより、本事業のことを知らなかったり、参加することができなかったりした恐竜パークの来場者にも磯の生き物の魅力を発信することができた。さらに、屋外では観察しづらかった眼の色や体の模様についても細かく観察できる環境が整ったことで、それぞれの生き物の魅力が高まり、より一層の興味関心を引き出すことができた。

【参加者の声】

◯事前に説明があったうえで、学生のサポートがあった点が良かった。そのことにより、生物の名前などを詳しく教えてもらうことができた。
◯生きものをとって、さわって、身近にかんじた。
◯とった生き物の名前や特ちょうを聞けた。
◯有識者と一緒に五感を使って海と触れ合えたことが良かった。
◯（海は）子どもたちの「なんで？」がたくさん生まれる場。無限の学びの場。
◯あぶない生物もたくさんいることがわかった。
◯たくさんの生き物が共生しているので、海のバランスを保つためには自分たちの生活でも見直せる坑道があると感じた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

３．タコとエビの凧（ハタ）づくり講座

【開催日時】タコ編　２０２３年5月２８日（日）１１：００ ～ １３：００
　　エビ編　２０２３年9月１０日（日）１１：００ ～ １３：００
【開催場所】野母崎文化センター（長崎のもざき恐竜パーク構成施設）
【参加者数】４７人（タコ編）、42 人（エビ編）
【活動内容・目的】

●「長崎凧（ハタ）」専門店の大守屋から、店主の大久保学氏を講師として招聘し、海のタコやエビをデザインした「長崎凧（ハタ）」の工作教室を開催した。
●長崎市恐竜博物館の学芸員がシーボルトの功績やタコ、エビとのつながりについて解説することにより、海の生き物への興味関心を高めた。
●海の生き物に関連付けた凧作りや凧あげ体験、記念バッジの配布により、本事業に関する記憶の定着を促した。

野母崎文化センター（ホール）

来場者への周知

大久保氏による長崎凧の事前説明

シーボルトとタコ、エビの説明資料

タコの長崎凧の制作（1）

タコの長崎凧の制作（2）

本講座で参加者は、長崎県の伝統工芸品に認定されている「長崎凧（ハタ）」の専門店の大守屋の店主大久保学氏から凧づくりを直に学び、長崎市恐竜博物館の中谷大輔学芸員からシーボルトとタコ、エビのつながりについて学ぶことで、長崎の文化と一緒に海や海の生き物についての理解を深めることができた。なお、本講座は予約制ではなく、ポスターやチラシ、SNS での事前告知と開催日に恐竜パークで行った周知活動によって参加者を集めた。恐竜の着ぐるみを用いて注目を集めてから参加者を募ったため、効果的に参加者を呼び込むことができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

エビの長崎凧の制作（1）

エビの長崎凧の制作（2）

参加者はタコやエビなどの海の生き物の他、思い思いに好きな絵を凧に描いたことで、オリジナルの長崎凧を作成した。それらの凧の中には、タコやエビなどの生き物の特徴をうまくとらえた力作もあった。ひもを通すための穴は講師の大久保氏や運営スタッフがあけ、会話をしながら参加者の凧づくりをサポートした。本講座には子供連れの家族だけではなく、大人一人での参加もあった。その方にお話しを伺ったところ、長崎凧の伝統的な絵柄に関心があったことがわかり、地域の文化を活用することで幅広い世代に対する海の学びの講座が実施できることが分かった。

凧あげ（タコ編）

凧あげ（エビ編）

長崎の春の風物詩として知られる長崎凧だが、本講座を行った両日ともに晴天に恵まれたため、凧作りを終えた参加者の多くが恐竜パーク内の広場で凧あげを楽むことができた。上手く凧をあげられない子供には親がお手本を示したり、運営スタッフが補助したりすることで、会話を楽しみながら空高く伸びやかにあがっていた。凧作りと凧あげを体験し、シーボルトとタコ、エビの説明資料やオリジナルの記念バッジを持ち帰ることで、自宅に戻ってからも本講座を思い出せるようにした。どの程度の効果があったかは検証できていないが、おそらく楽しい思い出と共に海の生き物への関心が高まったのではないかと思われる。

【参加者の声】

◯シーボルトが海洋生物学者だと知らなかった。
◯シーボルトのことを初めて知りました。この野母崎のきれいな海を守って欲しいです。
◯自然の中で身体をつかって、海を感じながらの凧あげが楽しかったです。
◯タコが風にのり、上にあがった。その際、風から潮の香りを感じた。海のそばは風も強くふくということを学んだ。
◯いつまでも長崎の海を守る為、何でも協力したいと思います。
◯イセエビの足が 10 本であること、を学んだ。
◯海について考えたり、どんな生き物がいるかなって、楽しむことができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

4. 地域の海洋生物の生体観察

（タコとエビの生体の観察・地域の海洋生物の生体観察）

【開催日時】２０２３年　６月４日（日）～11 月30 日（木）
【開催場所】インフォメーションセンター（長崎のもざき恐竜パ-ク構成施設）
【参加者数】 3,024 人（タコ祭り）、5,000 人（伊勢えび祭り）
148,035 人（長崎のもざき恐竜パーク来場者数）
【活動内容・目的】

- ●地域イベントの「タコ祭り」と「伊勢えび祭り」の開催に合わせて、マダコとイセエビの生体展示を行うことにより、地域の水産資源としてだけではなく、マダコやイセエビの生態について理解を深めることができた。
- ●「2. のもざき磯遊び講座」で採集した磯の生き物についても水槽にて展示することにより、来場者の磯の生き物への興味関心を高めた。

生体とパネルによる展示

来場者の様子

マダコの生体展示

イセエビの生体展示

磯の生き物図鑑（4-①）

磯の生き物図鑑（4-②）

博物館周辺地域の特産品で、シーボルトとのつながりもあるマダコとイセエビについて、より深く知ってもらうために生体観察が行える環境を整えた。また、「2. のもざき磯遊び講座」で採集した磯の生き物についても同様に生体観察ができるようにした。水槽の近くには解説パネルとミニ図鑑を設置し、海洋生物の魅力や磯の生き物の危険性、シーボルトとのつながりを伝え、調べ物学習につながる能動的な学びを促した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

タコ祭り会場の生体展示

タコ祭り

「タコ祭り」（6 月 18 日開催）は昨年度から始まった地域主体のイベントで、じゃんけんで勝ち残った参加者 62 名が生きているタコを手で捕まえて塩揉みし、茹でて持ち帰るところまでが提供される大人気イベントである。しかしながら、タコについての解説が十分とはいえず、参加できる人数にも限りがあったことから、タコについてのより深い学びにつなげるため、解説パネルとともに生体観察ができる水槽を会場内に設置した。このことにより、地域の水産資源でもあるタコへの興味関心を高めるとともに、海洋生物としての魅力も併せて伝えることができた。

伊勢えび祭り

伊勢えび祭り会場の生体展示

「伊勢えび祭り」（９月３日開催）は毎年恒例の地域イベントで、地域の飲食店でイセエビを使ったメニューが提供される他、恐竜パーク内でイセエビを使った味噌汁（400 杯）が安価で提供されたり、イセエビを手で捕まえて持ち帰ったりすることができる大人気イベントである。イセエビの学名はシーボルトによって命名されたものであるが、そのことを知る参加者は少なかった。そのため、シーボルトとのつながりや海洋生物としての魅力を伝えるために生体観察ができる水槽を設置した。

【参加者の声】

◯野母崎でタコがたくさんとれることを初めて知った。
◯小さなつぼの中にいるタコと目があった。
◯水そうの中の２匹のタコがからみ合っていておもしろかった。
◯イセエビの学名がシーボルトによるものだと知っておどろいた。
◯野母崎の海にはいろいろな生き物がいて、中には危険生物もいるのだなと思い、すぐにさわろうとするのはやめようと思った。
◯イセエビがじっとしていると思っていたら、抜け殻だった。
◯シーボルトは医者だと思っていたが、海洋生物学者でもあったのだと知った。
◯身近な海にいろいろな生き物がいるのだなと改めて感じ、目の前のきれいな海を守っていかないとけないと思った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

本事業ではシーボルト来日 200 周年という記念の年に、長崎独自の歴史や文化、地域主体のイベント等を活用して、地元の水産資源であるマダコやイセエビ等の海洋生物への興味関心を高めることができた。また、本事業を実施したことにより、自治体や博物館だけではなく、水族館や大学、地元漁協関係者とも連携を深めることができた。このような取り組みが滞りなく実施できた要因としては、それぞれの事業担当者の熱意だけではなく、それぞれが役割を自覚して積極的に動き、密接に情報共有することができた点が良かったと考えられる。さらに、地域住民によるボランティアにも助けられ、多くの来場者に安全に海の学びを提供することができた。このことは、この地域における今後の海洋教育の基盤となるものであり、海に関わる次世代の育成にもつながるものと考えられる。これからも継続的な海の学びの機会を創出していくことで、SDGs 目標 14「海の豊かさを守ろう」の実現にも貢献していきたい。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．一般財団法人長崎ﾛｰﾌﾟｳｪｲ・水族館 （長崎市ペンギン水族館指定管理者）	● 講師派遣 ● 講演及び解説パネルで使用可能な画像の提供 ● 本事業の周知協力 ● 情報交換
2．株式会社乃村工藝社 （長崎歴史文化博物館指定管理者）	● 本事業の周知協力 ● 情報交換
3．長崎市（シーボルト記念館）	● ポスターやチラシで使用可能な画像の提供 ● 本事業の周知協力
4．長崎大学	● 講師派遣 ● 本事業の周知協力 ● 情報交換
5．長崎総合科学大学	● 本事業の周知協力 ● 情報交換
6．ナチュラリス生物多様性センター	● 解説パネルで使用可能な画像の提供 ● 情報交換
7．野母崎たこ祭り実行委員会	● 運営スタッフの提供 ● 本事業の周知協力 ● 情報交換
8．のもざき伊勢エビまつり実行委員会	● 運営スタッフの提供 ● 本事業の周知協力 ● 情報交換
9．のもざき自然塾	● 講師派遣 ● 本事業の周知協力 ● 情報交換

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．長崎のもざき恐竜パーク公式ホームページ	シーボルト来日 200 周年記念イベント開催決定！！(タコとエビの凧(ハタ)づくり講座５月28日)

	掲載日：２０２３年５月26日
２．長崎のもざき恐竜パーク公式ホームページ	シーボルト来日 200 周年記念イベント開催決定！！(タコとエビの凧(ハタ)づくり講座９月１０日) 掲載日：２０２３年９月４日
３．長崎のもざき恐竜パーク公式ホームページ	シーボルト来日 200 周年記念イベント開催決定！！(のもざき磯遊び講座) 掲載日：２０２３年６月　日
４．長崎のもざき恐竜パーク公式ホームページ	シーボルト来日 200 周年記念イベント開催決定！！(お魚トークイベント/お魚放流会) 掲載日：２０２３年６月　日

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。